

漠北の地と康國人

ソグディアナ (Sogdiana) 人の支那領トルキスタン地方に残した文獻が、相繼いで世に紹介せられるやうになつてから、此の國人と支那、若しくは支那領トルキスタンとの、政治商業文化等諸方面の關係が、以前よりも一層深く注目され、漸く真相の究められつゝあるのは、誠に快心の事である。然れどもソグディアナ人の東方に有する關係は、單に此等の地方にのみ止るものではない。

漠北に崛起して勢力を得るに至つた諸民族の、外に向つて先づ接觸した文化が支那のそれであつたことは言ふまでもない。併しながら此等の諸民族が南して支那を脅かす程の勢力を得た場合には、殆ど常として西方に於ては遠く露領トルキスタンの地、即ちソグディアナ地方にも勢を及ぼして居つたものであることは、史上顯著なる事實である。距離の上から見れば兩者甚だ遠隔の間に在るが、遊牧に従事する諸部落が諸方に點在するに過ぎない兩者間の土地の状態よりすれば、一旦勢力を得るものゝあつた場合には、此の廣漠の土地もたゞ一個の區域に過ぎないこととなるのは當然であつて、彼等が南に長城黄河を越えて支那に侵入するのは、西にシル河を渡つてソグディアナに入るに相當すると觀得られやう。地圖の上に記される山河自然の要害は、之を守り之を固むる勢力が充分に加は